

高等学校

平成25年度

教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究の仮説	2
IV	研究の方法	3
V	研究の内容	4
VI	研究の成果	23
VII	今後の課題	24

(特別活動)	研究主題「よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる教育活動の評価の在り方」
---------------	--

I 研究主題設定の理由

学習指導要領では、生きる力を育むことを目指し、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うため、言語活動を充実させることとしている。

今年度の高等学校の部会共通テーマ「思考力・判断力・表現力等を育む学習活動を活性化させる学習評価の在り方」は、こうした新学習指導要領が目指す教育実現のための学習評価の在り方に焦点を絞ったものである。

特別活動部会では、この高等学校部会のテーマを受け、特別活動における評価の在り方について研究を行うことにした。

特別活動の評価については、学習指導要領第一章第5款5（12）に「生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価するとともに、指導の過程や成果を評価し、指導の改善を行い学習意欲の向上に生かすようにすること。」とあり、実際には、学校や生徒の実態に応じて、様々な方法で評価が行われている。そこで、本部会では実際に各学校でどのような評価が行われているのか、それが生徒の学習活動にどのように生かされているのか、さらにどのような評価の在り方が求められるのか、ということについて、研究することにした。

また、学習指導要領の第5章「特別活動」の第1「目標」では次のように示している。

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

上記「目標」における旧学習指導要領からの主な改訂点は、「人間関係」を加えた点であり、望ましい集団活動や体験的な活動を通して行う実践活動であるという基本的な性格は小・中学校と変わらないが、高等学校においては、義務教育として行われる普通教育の成果を更に発展させる必要があるという観点を重視している。

そこで、本部会では学習指導要領に掲げられた「特別活動」の目標に沿って、主題テーマを「よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる教育活動の評価の在り方」とし、「よりよい生活や人間関係を築こうとする態度」、すなわち、他者と協力して集団や社会に主体的に関わる態度を育てるために必要な評価の在り方について研究を進めることとした。

II 研究の視点

生徒の実態から課題を見付け、今後特別活動において必要とされる評価の在り方を検討した。

1 「よりよい人間関係を築こうとする態度」という観点から見た生徒の実態と課題

【生徒の実態】

本部会の研究員が所属する学校の生徒の実態については、以下のような点が挙げられた。

- ・集団の場において、自分の意見を述べることはできるが、他者の意見を聞くことができない。
- ・特定の友人以外との会話が苦手である。
- ・集団活動において、「誰かがやってくれる」という他人任せの態度が見られる。
- ・他者の評価を気にして、自分の意見を言うことができない。

また、PCや携帯電話が普及した今日、メール等では冗舌であるが、面と向かっての会話ができないなど、他者とのコミュニケーションを苦手とする若者の増加は社会全体の問題となっており、高校生に関しても同様の傾向が見られる。

【課題】

上記のような現状から、特別活動における課題は、以下の3点と考えられる。

- ・自己と他者を肯定し、お互いを認め合う態度を育てられていない。
- ・自尊感情をもち、自分の意見を自信をもって発表することのできる態度を育てられていない。
- ・言語活動を通して、他者と円滑なコミュニケーションを図ることのできる力を育成できていない。

2 特別活動において現在行われている主な評価またはその手段と課題

【現在行われている主な評価とその手段】

- ・観察、対話、助言（教師による生徒個人または集団に対する評価）
- ・行事後の振り返りシート（生徒による生徒個人または集団に対する評価）
- ・アンケート（生徒による生徒個人または集団に対する評価）

【課題】

上記のような様々な評価が行われているが、次回の活動につながる評価となっていないのが実情である。

3 1、2を踏まえて、今後必要とされる評価の在り方

- ・事後のみでなく、各過程で適切な評価をし、生徒に還元すること。
- ・集団に対する評価が多くなされがちであるが、個人に対する評価もできるだけ丁寧に行うこと。
- ・生徒が自分に対して肯定的な感情をもち、自分の課題を見付け、次の活動に生かすことができるような、評価を行うこと。

Ⅲ 研究の仮説

生徒同士が肯定的に認め合い、それまでの人間関係を更によりものとするために、活動の事前・事後・活動中の各過程で評価を行う。事前の評価においては活動のねらいや意義を生徒に十分に理解させ、活動についてあらかじめ調べたり、準備したりし、意欲をもって活動できるようにすることが重要である。事後の評価においては生徒が自分の体験を振り返り、次の目標をもてようにすることに重点を置く。

また、お互いを認め合う姿勢やコミュニケーション能力を高めるために言語活動を評価の方法に多く取り入れる。

このことから本部会では仮説を次のように設定し、検証をした。

【仮説】

他者との人間関係が希薄であったり、他者との直接的なコミュニケーションをとることが苦手であったりする生徒が多い。そのような現状に、お互いを積極的に評価することを取り入れることにより、生徒が自主的・実践的に動けるようになり、更によりよい人間関係が築けるようになる。

IV 研究の方法

特別活動の評価は、主に観察、ワークシートなどで、あらゆる段階で行うことが必要である。しかし、それが人間関係の形成を目指した生徒指導に生かされていないのが現状である。そこで本研究では、評価することによって生徒の活動意欲が向上し、さらに高度な活動に発展させ、その結果を新たな活動に結び付けていくことができるために、相互評価を重点的に行う。また、相互評価を行うために、自己評価を行い、そのサポートとして教師による評価を行う。これらについて、研究を行い、成果と課題をまとめた。

1 相互評価

事前・事後のワークシートの中で、付箋紙を使用してお互いの評価を行う。相互評価では、それぞれの良い面を付箋紙に記入し、お互い付箋紙を交換した。その後、交換した付箋紙を読み、他者からの評価を踏まえた上で自らを振り返る。

事前のワークシートでは、お互いに期待することを書かせ、自分の役割を理解し、また、自信をもつことにつなげる。事後の相互評価では、お互いの良かった面を積極的に評価させ、次の活動に生かせるようにする。

2 自己評価

事前・事後にワークシートに記入する。事前のワークシートでは、行事に取り組む姿勢や役割を明確にすることを目的とした。事後のワークシートでは、クラスのためにどのようなことができ、これからの学校生活や行事で、どのようにクラスに関わりをもつことができるかを確認した。

3 教師による評価

事前・事後のワークシートの記入後、教師が生徒に言葉掛けの評価や個人のワークシートへのコメントによる評価を行う。活動途中においても、ワークシート等を各過程で適切に評価し、その評価を生徒に還元し、次の活動につなげられるようにする。ホームルーム通信などを活用して全体への評価も行う。

以上の1～2の評価は、言語活動を通して行う。

V 研究の内容

研究構想図

全体テーマ 『学習指導要領に対応した授業の在り方』

高校部会テーマ 『思考力・判断力・表現力等を育む学習活動を活性化させる学習評価の在り方』

思考力・判断力・表現力等を育む学習活動の現状

思考力・判断力・表現力等を育むために、話し合い活動やワークシートの活用などによって、言語活動の充実を図っている。しかし、生徒の中には自尊心がもてなかったり、自己表現が苦手であったりするために、他者とのコミュニケーションがうまくとれず人間関係の形成ができていない者もいる。

学習活動の取組に対する学習評価の現状

特別活動においては、主に観察、ワークシートによって評価が行われているが、それが人間関係の形成を目指した生徒指導に生かされていない。そのため、生徒の活動が次の学校行事などに発展的につながっていないのが現状である。

現状から見えてきた課題

- ・自己と他者を肯定し、お互いを認め合う態度を育てられていない。
- ・自尊心をもち、自分の意見を自信をもって発表することのできる態度が育てられていない。
- ・言語活動を通して、他者と円滑なコミュニケーションを図ることのできる力が育成されていない。

(特別活動)部会

よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる教育活動の評価の在り方

仮 説

他者との人間関係が希薄あるため、直接的なコミュニケーションをとることが苦手である生徒が多いと考えられる。そのような現状に、お互いを積極的に評価することを取り入れることにより、生徒が自主的・実践的に動けるようになり、更によりよい人間関係が築けるようになる。

具体的方策

事前・事後活動においてワークシートを活用し、自分自身及び集団の現状や問題点を明確にするとともに、言語活動を通してお互いを肯定的に認め合うことにより、集団や社会の中で自己を生かす能力に気付かせ、自尊心をもたせる。また各過程における評価を活用して、ホームルーム通信などを通じて、生徒にフィードバックするなどして次の活動につなげる。

評価・検証

活動を通じて、その各過程で適切に評価をし、生徒の意識の変容を確認するためにワークシート及び観察により、分析することで検証する。

2 実践事例

ホームルームが主体となつて行う学校行事の評価について、共通の評価規準を以下のように作成した。評価規準は、「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校 特別活動）」（国立教育政策研究所 教育課程研究センター）と「新学習指導要領における学習評価の進め方（中学校 特別活動）」（佐賀県教育センター）を参考にした。

単元の評価規準

ア 集団活動や生活への関心・ 意欲・態度	イ 集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	ウ 集団活動や生活について の知識・理解
① 集団活動において、積極的に自分の意見を述べたり、他者の意見を聞いたりできる。 ② 集団活動において、より良いものを作り上げる努力している。 ③ 自己を伸ばそうとする意欲をもって、自主的・自律的に行事に取り組もうとしている。	① 集団の中での行動や自分の役割を積極的に考えることができる。 ② 自覚と役割意識をもち、物事を選択決定し実践することができる。 ③ 集団活動において、他者の言葉や意見を受けて、考え、判断を下し、自分の考えや思いを言葉などにまとめて、表現できる。 ④ 自他のよさや自己の成長などについて考え、判断し、協同して実践している。	① 役割の内容を理解している。 ② 集団生活の充実と向上を図ることの重要性を理解している。 ③ 互いのよさを認め合うことの意義や自他の個性について理解している。

(1) 実践事例 1

科目名	ホームルーム活動	学年	定時制 1～4 学年
-----	----------	----	------------

定時制課程におけるホームルーム活動を通して、事前、事後ワークシートを活用した相互評価が、どのように生徒に影響を与えるかを検証する。特に、生徒同士のコミュニケーションや、文化祭に取り組む姿勢を中心に、実際に、どのような変容があるのかを観察やアンケート結果の分析から考察する。

ア 単元（題材）名

ホームルーム活動 「文化祭におけるクラス催し物企画の取組」

イ 単元（題材）の目標

- (ア) ホームルームとして文化祭に主体的に参加することにより、生徒一人一人に組織の一員としての役割と責任を自覚させ、自主的、実践的な態度を育てる。
- (イ) 望ましい集団活動を通して、幅広い人間関係を築くことができる。

ウ 単元（題材）の指導と評価の計画（4時間扱い）

時間	学習内容	学習活動	評価規準 (評価方法など)
第一時	・文化祭のクラスの催し物を決定	・文化祭実行委員会を中心に、企画を考え、決定する。	・ア① ・イ② (観察)
第二時	・文化祭の係・役割分担を決定	・企画に必要な、係を挙げ、役割を分担する。 ・ワークシートを記入する。	・ウ① ・イ①、④ (観察・ワークシート)
第三時	・文化祭に向けての準備	・ポスター、食券などの作成をする。	・ア② ・イ① ・ウ① (観察)
(本時) 第四時	・文化祭の反省会	・ワークシートを記入し、文化祭の振り返りを行う。	・ア③ ・イ④ ・ウ③ (観察・ワークシート)

エ 本時（全4時間中の4時間目）

(ア) 本時の目標

- ① 自己の活動を振り返り、適切に表現する。
- ② クラスの企画を振り返り、積極的に話し合い活動に参加し、他の生徒に自分の意見を伝える。

(イ) 本時の展開

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶、出欠の確認をする。 本時の学習内容、ねらいを確認する。 各学年の様子をスライドで振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の内容を説明し、課題が見付けられるようにする。 文化祭の活動の中で、良かったことを中心に振り返らせる。 スライドを活用することで、催し物を具体的に考えさせる。 イメージしやすいスライドを準備する。 	
展開	30分	<ul style="list-style-type: none"> 事後ワークシートを配布し、説明をする。ワークシートの1番から3番までを行うよう指示をする。 自分自身の行動や仲間の行動を思い出しワークシートを進める 	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身について振り返ることを理解させ、作業を進めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> イ① ウ① (観察・ワークシート)
		<ul style="list-style-type: none"> 全員が終わったことを確認し、グループ分けを行い、付箋紙を配布する。 付箋紙に仲間へのメッセージを書く。 メッセージを書いたら、友達に渡すよう指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の頑張ったところ、良かったところに注目し、メッセージを記入させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ア① イ③④ ウ③ (観察・ワークシート)
		<ul style="list-style-type: none"> メッセージを書き終えた人からワークシートの5番から7番を行うよう指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達からのメッセージを見て、自己を振り返らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ア③ イ① (観察・ワークシート)
まとめ	5分	<ul style="list-style-type: none"> 本時のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> この時間の内容についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> イ① ウ② (観察)

資料:事前ワークシート

文化祭成功にむけて

月 日() ~ 日()は文化祭です。

1. 自分の活動について、マスを塗って自己評価してみよう。

・文化祭は楽しみですか？
[] [] [] [] [] []

・やる気はどれくらい？
[] [] [] [] [] []

・積極的に発言できそう？
[] [] [] [] [] []

・他の人の意見に耳を傾けれそう？
[] [] [] [] [] []

・クラスは話せる雰囲気ありそう？
[] [] [] [] [] []

特に改善すべき点は
左の5つのうち…

かな

塗ったマスの計= _____ 個

2. クラスの企画を成功させるために一番大切なことを挙げてみよう。

・ _____

・ _____

3. 自分にはどんなことができると思いますか。

・ _____

・ _____

4. グループ内で問題を話し合っ、付せんにメッセージを書こう！ ↓ 付せんを貼る ↓

4. クラスメイトからのメッセージを見てみて…

☆クラスメイトから自分に期待されていること☆

・ _____

☆自分では気付かなかったところ☆

・ _____

5. 以上を踏まえての自分の目標

・ _____

・ _____

資料:事後ワークシート

年 組 氏名

文化祭を振り返って

1. 自分の活動について、マスを塗って自己評価してみよう。

・文化祭は楽しかったですか？
[] [] [] [] [] []

・やる気はどれくらい出せましたか？
[] [] [] [] [] []

・積極的に発言できましたか？
[] [] [] [] [] []

・他の人の意見に耳を傾けることができましたか？
[] [] [] [] [] []

・クラスは話せる雰囲気でしたか？
[] [] [] [] [] []

特に改善すべき点は
左の5つのうち…

かな

塗ったマスの計= _____ 個

2. 今回の企画を通してクラスがよくなったところは
どういところですか。

・ _____

・ _____

3. 自分がクラスのためにできたことは何ですか。

・ _____

・ _____

4. 面と向かって言えないことを、感謝の気持ちをもって書こう！
友達のかな頑張り、あんな活躍！

例

_____ してくれてありがとう。

_____ してくれて盛り上がったよ。

5. クラスメイトからのメッセージを見てみて…

☆クラスメイトから認められたこと☆

・ _____

☆自分では気付かなかったところ☆

・ _____

6. 以上を踏まえて、自分はどう行動できたと思いますか。

・ _____

・ _____

7. これからの 年 組であなたはどんなことができますか。

・ _____

・ _____

オ 本時の振り返り

- (ア) 文化祭のスライドを見ることにより、具体的なイメージをもつことで、準備や当日のことをしっかり振り返ることができ、自分自身が関わったことを理解することができた。

また、それぞれが、文化祭に関わったことについて、多くの生徒が振り返りワークシートに記入し適切に表現することができた。

- (イ) 教師側でグループを決め、グループ内で相互に他の生徒の良かった面に注目させ、コメントを記入させ、生徒が一人ずつにメッセージを渡すことができた。言葉を考えることができない生徒もいたが、記入する時間を多くとり、ひと言でも他の生徒に渡すことができるよう配慮した。多くの生徒が、他の生徒の良い面や感謝の気持ちを伝えることができたようである。文化祭当日、欠席生徒もおり作業を行うことができない者は、これからの課題について考えさせた。
- (ウ) 文化祭の準備から当日まで、自己を振り返りや生徒相互の振り返りを行うことができたが、次の学校行事につなげる明確な課題を挙げることができなかった。

カ ワークシート及びワークシート結果と考察

本部会では、事前、事後の文化祭に関するワークシートを実施した。ワークシートでは、自分の活動について、自己評価させることと、他の生徒からのメッセージを受けて、もう一度自己評価を行う方法をとった。

(ア) 事前ワークシートの結果と考察

7月に実施した事前ワークシートを集計し、その結果を示す。

はじめに、自分の活動について自己評価をさせた。

「文化祭は楽しみですか」という質問に対しては、70%の生徒が「楽しみにしている」と回答している。全体的に、文化祭への期待が高いことが分かる。

「やる気はどれくらいですか」という質問に対しては、66%の生徒が「やる気はある」と回答している。普段の学校生活では、積極的に取り組もうとする姿勢のない生徒が多い中、文化祭に向けて「やる気はある」と回答した生徒が半数以上いることは、行事に向けての意欲の高いことが分かる。

「積極的に発言できそうですか」という質問に対しては、63%の生徒が「できる」と回答している。「やる気はどれくらいですか」と「積極的に発言できそうですか」の質問から、前向きに行動しようとする気持ちの表れを見ることが出来る。「他の人の意見に耳を傾けることができますか」という質問に対しては、69%の生徒が「できる」と回答し、「クラスは話せる雰囲気がありますか」という質問に対しても、62%の生徒が「ある」と回答している。

次に、「自分にはどのようなことができますか」という質問に対して、89%の生徒が、今、自分のできる仕事見付けることができた。少数ではあるが、11%の生徒が自分の役割を見付けることができなかった。こうした生徒に対しては、教師が積極的に行事と関わるよう促す必要がある。

さらに、他の生徒からのメッセージを受けて、自分の行動を振り返らせた。自分では気付かなかった点について考えさせた。他の生徒からのメッセージにより、自分自身の役割を見付けることができた生徒もいた。しかし、5%の生徒は、役割を見付けることができなかった。この生徒については、個別対応を行い、作業を進めることができるよう改善する。

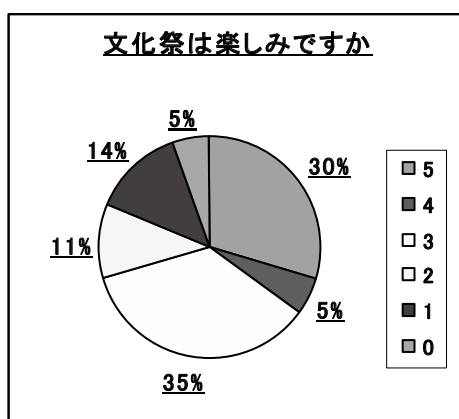
9月の文化祭前に、文化祭に向けての意識を高めるため、事前ワークシートの全体の結果をプリントにして返却し、全員で振り返りを行った。振り返りを行ったことにより、他の生徒の気持ちなどが分かったり、自分の役割を確認したりすることで、文化祭に向けての活動が、活発になった。

(イ) 事後ワークシートの結果と考察

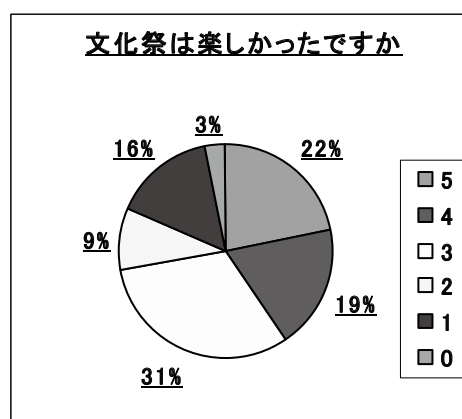
9月の文化祭終了直後のロングホームルームで、事後のワークシートを実施した。事前のワークシートと同じ構成にし、事前、事後の結果を比べやすいよう作成した。

「文化祭は楽しかったですか」という質問に対して（図1）、72%の生徒が「楽しかった」と回答している。「楽しくなかった」と回答した38%の生徒は、文化祭の実施が天候の関係で一日だけであったことが影響していると考えられることができる。

図1 <事前>

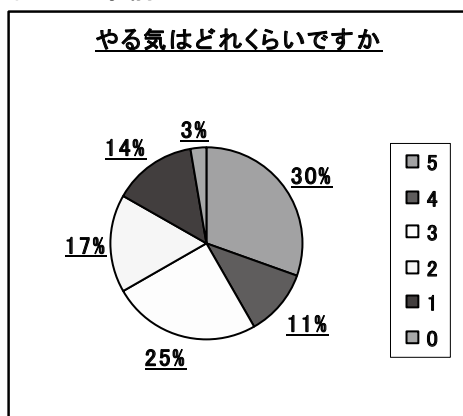


<事後>

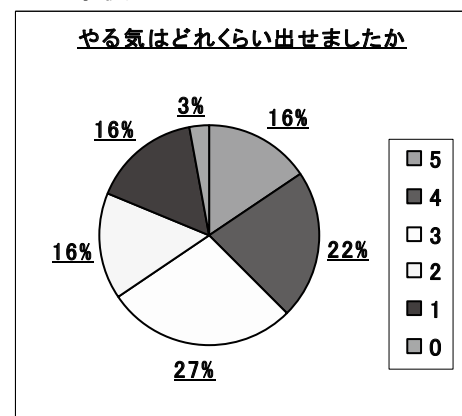


「やる気はどのくらい出せましたか」という質問に対しては（図2）、66%の生徒が「やる気を出せた」と回答している。これも、最初の質問と同じことが考えられ事前の結果より1%減少した。

図2 <事前>

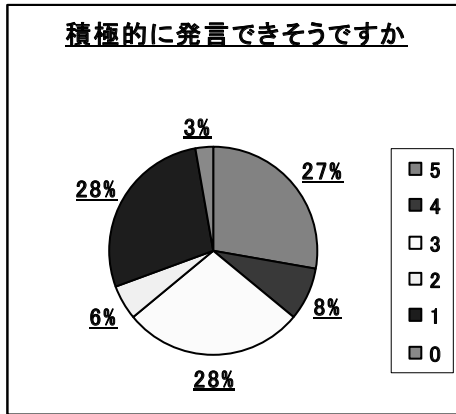


<事後>

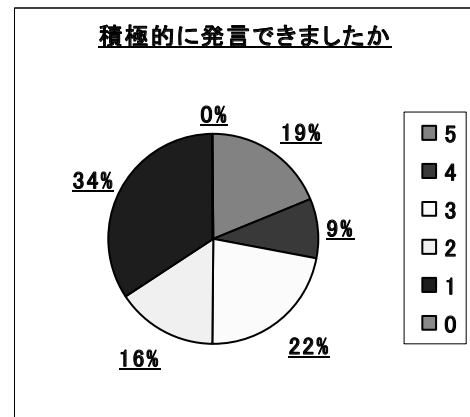


また、「積極的に発言できましたか」「他の人の意見に耳を傾けることができましたか」「クラスは話せる雰囲気でしたか」という質問に対して（図3）（図4）、事前に比べ事後は、それぞれの結果が低下している。このことから、クラスの活動に自ら行動することができなかったことが考えられる。今後は、生徒が興味関心をもつことができるような工夫や話し合い活動での工夫を行い改善する。

図3 <事前>



<事後>

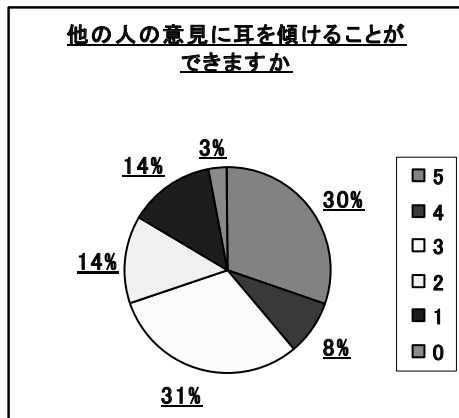


-13%

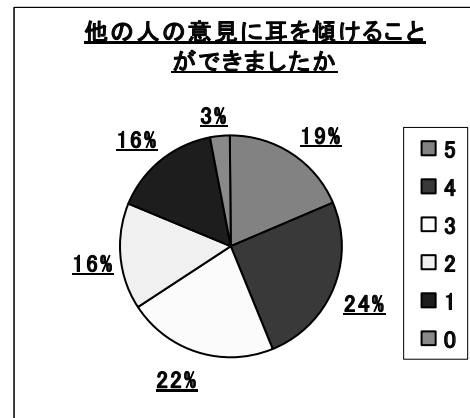
次に、「自分がクラスのためにできたことは何ですか」という質問に対して、クラスでの役割を理解し、行動できた生徒が87.5%であった。しかし、12.5%の生徒が、自分の役割がわからず、何もできなかった。さらに、他の生徒からのメッセージを受けて自分の行動を振り返らせたが、9.3%の生徒が、他の生徒からのメッセージを受けても、文化祭で自分の役割を見付け行動することができなかった。

たとえ文化祭が一日しか実施できなかったとしても、何か役割を見付け、行事に関わることが大切である。このような生徒が、今後増えないようにするためにも、教師の支援を積極的に行い、生徒が役割を見付けることができるようにしていかなければならないと考える。

図4 <事前>

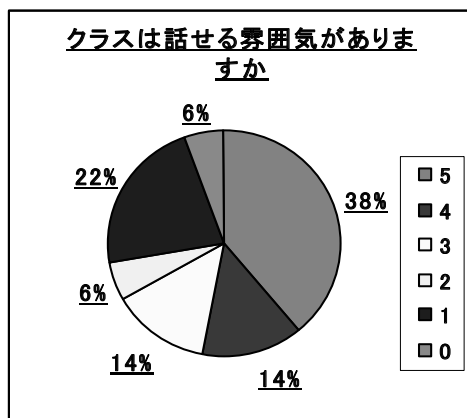


<事後>

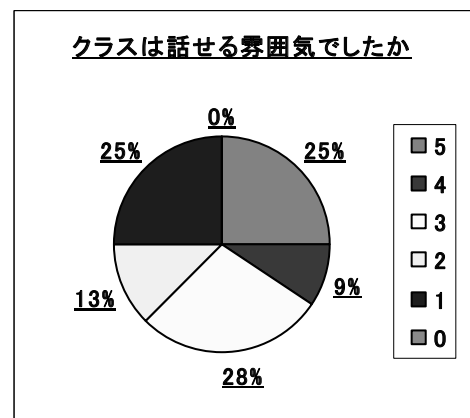


-4%

<事前>



<事後>



+4%

(2) 実践事例 2

科目名	ホームルーム活動	学年	1 学年
-----	----------	----	------

文化祭に関わるホームルーム活動を通して、事前、事後のワークシートや付箋紙を活用した相互評価により、生徒同士のコミュニケーションを活性化させる。さらに、コミュニケーションの活性化が、生徒同士の関係にどのような影響を与えるのか、観察などを通して検証する。

ア 単元（題材）名

ホームルーム活動 「文化祭におけるクラス企画の取組について」
～よりよい人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度の育成～

イ 単元（題材）の指導目標

- (ア) 文化祭クラス企画を通して、生徒一人ひとりにクラスの一員としての役割と責任を自覚させ、自主的・実践的な態度を育てる。
- (イ) 文化祭クラス企画を通して、クラス全体の話し合い活動を活性化させ、生徒一人ひとりのコミュニケーション能力の向上を図る。
- (ウ) 成功体験を通して、集団活動や自らの実践のよさを理解させ、生徒一人ひとりに自信をもたせる。

ウ 単元（題材）の指導と評価の計画（8時間扱い）

時間	学習内容	学習活動	評価規準 (評価方法)
第一時	・文化祭クラス企画についての説明	・文化祭実行委員から、文化祭クラス企画について説明する。 ・テーマ、企画について話し合う。	・ア① ・イ③ (観察)
第二時	・文化祭企画の決定	・文化祭企画について決定をする。 ・実行委員が企画書を作成する。	・ア③ ・ア② (観察) (企画書)
第三時	・文化祭企画準備	・ネットでの「ケチャ」の動画を見て、今後の課題について話し合う。	・ア①、② ・イ③、 ・ウ① (観察) (発表)
第四時	・文化祭企画役割分担	・「ケチャ」の上演に向けて必要なものを検討する。 ・クラスの中で役割分担を決める。	・ア②、 ・イ① (観察)

第五時	・文化祭活動計画と準備	・夏休み中の活動計画を決める。 ・事前ワークシートを記入する。	・ア③ ・イ②、④ ・ウ③ (観察)
第六時	・文化祭に向けての準備	・公演のための合わせ練習。	・ア② ・イ②、③ ・ウ①、②、③ (観察)
第七時	・文化祭（1・2日目）	・公演本番に向けての確認。	・ア② ・イ②、③ ・ウ①、②、③ (観察)
第八時 (本時)	・文化祭企画反省	・事後ワークシートを記入する。	・ア③ ・イ④ ・ウ③ (観察・ワークシート)

(ア) 文化祭実行委員

文化祭クラス企画の取組は、基本的に文化祭実行委員によって進められる。文化祭実行委員は、各ホームルームから選出された4名の委員からなり、昼休み及び放課後に委員会を開いている。委員会の活動は学校全体の文化祭の運営及びクラス企画の立案を主に活動している。

(イ) クラス文化祭委員

クラス文化祭委員は、文化祭実行委員からの連絡を受けて、実際にクラスの企画及び運営を行う。

(ウ) 役割分担

クラスの生徒全員で文化祭企画に取り組むため、下記のような役割と内容などを決める。

役割	内容	人数
演技発表	ケチャの踊り	16人
衣装作成	ケチャの衣装をつくる	24人
垂れ幕作成	学校で定められている規格に合わせた垂れ幕の作成	6人
会場準備	会場作成、案内等の作成	40人

エ 本時（全8時間の8時間目）

(ア) 本時の目標

①ワークシートを通じて、他者からの自分への評価を知る。

②話し合い活動の中で、他の生徒の意見を尊重する姿勢を身に付ける。

(イ) 本時の展開

過程	時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入	5分	・前時の振り返り ・ワークシートの説明	・ワークシートを利用したグループでの作業について説明する。	・ア③ (観察)
展開	40分	・個人でのワークシート記入 ・グループでの作業 ・付箋紙にメッセージの記入	・個人でのワークシート取り組み後、グループワークへ移行 ・肯定的な言葉で他者へメッセージを書いて渡す。	・ア① ・イ③、④ ・ウ③ (観察)(ワークシート)
まとめ	5分	・本時のまとめ	・本時の内容についてまとめる。	・ア②、③ ・ウ③ (観察)

オ 本時の振り返り

- (ア) ワークシートの作業では、同じグループになった人のよいところ、文化祭で期待しているところを肯定的な言葉で記述させるようにした。このことにより、他者のよい面を見ようと努力するようになり、今後の人間関係形成の素地となった。また、気軽に書いて相手にも渡しやすことを考え、付箋紙を利用したのが効果的であった。
- (イ) 他の生徒からの自分へのメッセージを読むことにより、周りから自分は必要とされている。期待されているという肯定的な自己理解の意識をもつことができた。言葉にすることに恥ずかしさを感じている生徒もいたが、メッセージをもらった方は嬉しそうであった。
- (ウ) 中には作業が進まない生徒もいた。今後、このような生徒に対して、限られた時間内でメッセージを書くことができるように援助を行うことが課題である。

カ ワークシート結果と考察

本部会では、文化祭行事において、行事の前後でクラス内でワークシートを実施した。ワークシートでは意欲・行動・協調性を事前と事後でどのように異なったか。また自分に与えられていると思われる役割や他者に対する期待を記入させた。そして、メッセージ交換をすることにより、他者から自分がどのように期待されているのかを認識させた。また結果は円グラフで示した。(後掲)

(ア) 事前ワークシートの結果と考察

以下は7月に実施した事前ワークシート結果である。

集計として、5段階のマスを自己申告で塗りつぶし、3マス以上塗っている回答をカウントしている。「文化祭は楽しみですか」という質問に対しては(図5)、79%の生徒が「楽しみにしている」と回答している。高校生活始まって初めての文化祭ということもあり、興味・関心の高さが伺える。

「やる気はどれくらいですか」という質問に対しては、(図6)79%の生徒が「やる気がある」と回答して、意欲の高さが伺える。

「積極的に発言できそうですか」という質問に関しては(図7)、49%の生徒が「できる」と回答しており、約半分の生徒である。「他の人の意見に耳を傾けることができますか」という質問に関しては、87%の生徒が「できる」と回答しており、協調性の高さを見ることができる。

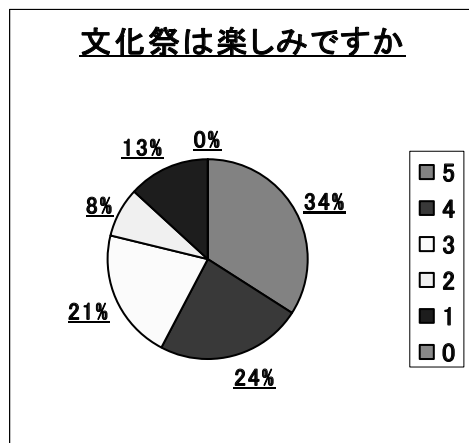
「クラスは話せる雰囲気にありますか」という質問に関しては(図9)、51%と約半数であった。事前のアンケート結果から見てきたことは、高校生活も3か月が過ぎ、クラスの雰囲気も出来上がり、高校生活始めての文化祭に向けた期待をもっている生徒が大半ということであった。

(イ) 事後ワークシートの結果と考察

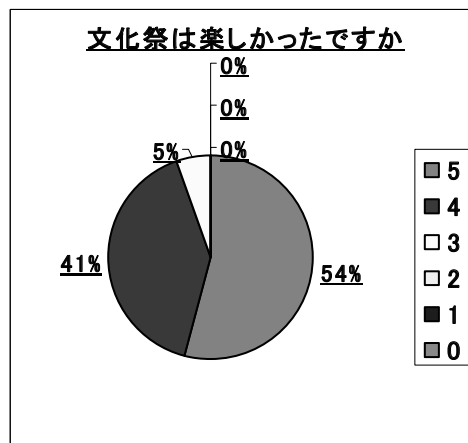
文化祭が終わった直後に事後のワークシートを実施した。事後のワークシートは事前のワークシートとの比較がしやすいように作成した。以下、結果である。

「文化祭は楽しかったですか」という質問に関しては(図5)100%、クラス全員が楽しめたという結果となり、満足の高さが伺えた。

図5 <事前>

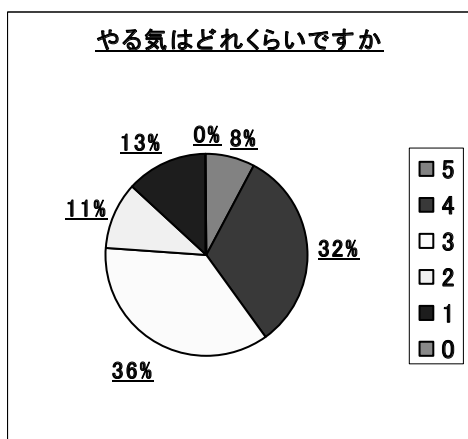


<事後>

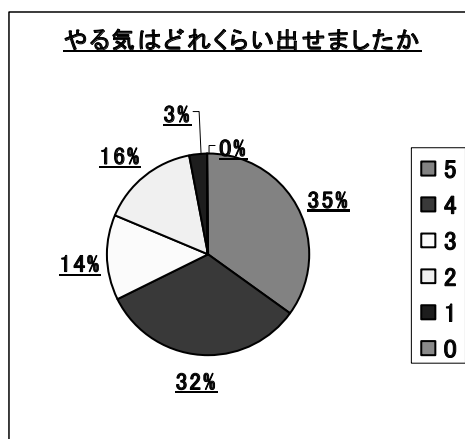


「やる気はどれくらい出せましたか」という質問に関しては、(図6)81%の生徒が回答している。事前との上昇率は2%であるがクラスの8割を超えた。

図6 <事前>



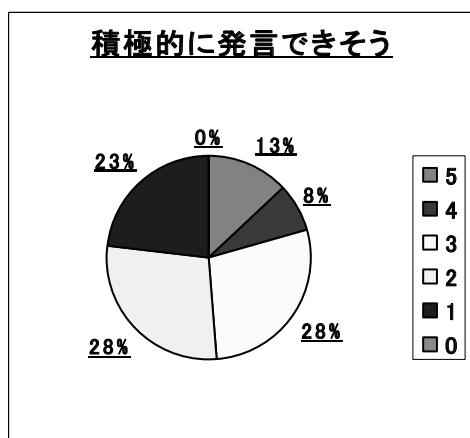
<事後>



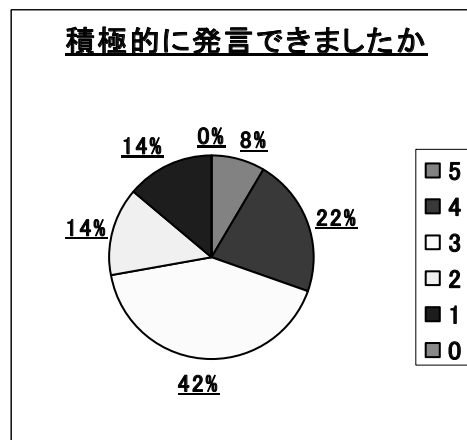
+ 2%

「積極的に発言できましたか」という質問に関しては（図7）、72%と事前に比べ23%の上昇率となった。しかし次の「他の人の意見に耳を傾けることができましたか」という質問に関しては（図8）、75%であり、-12%と減少している。この結果から、自分の意見は言えたが、他者の言葉をあまり聞くことができなかつたということであり、今後の課題を発見することができた。原因としては、クラスにも慣れ、積極的に発言もできて文化祭も楽しめたが、ケチャを作り上げることに精一杯で他の生徒に対してまで気遣いがそれほどできなかったことにあるように見える。

図7 <事前>

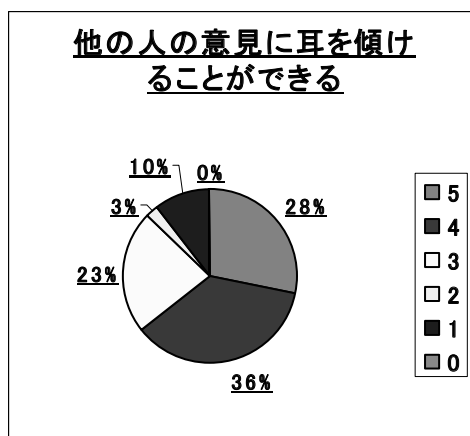


<事後>

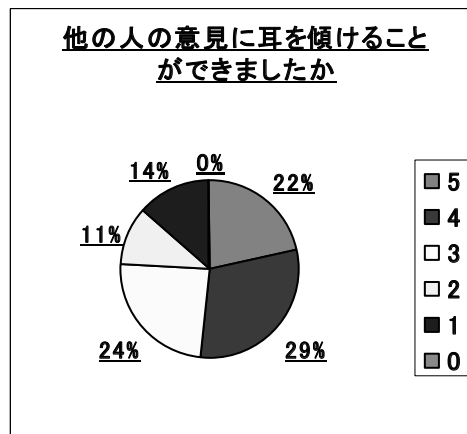


+ 23%

図8 <事前>



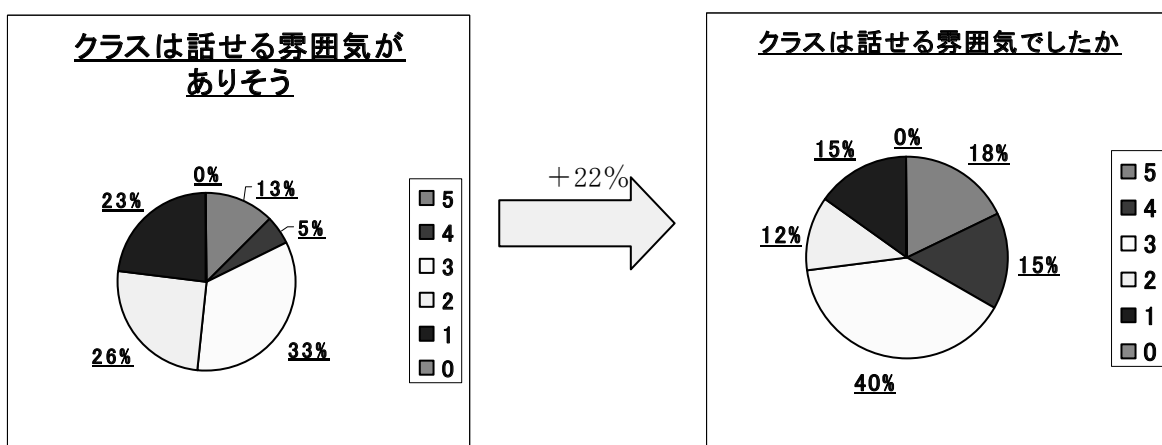
<事後>



- 12%

「クラスは話せる雰囲気でしたか」という質問に関しては（図9）、73%の回答であり、22%の上昇率であった。

図9 <事前>



文化祭行事を通じて、クラス全体の雰囲気が作られたことを示す結果である。事後のワークシート結果から、互いに肯定的な言葉を使い感情を交流させることにより、よりよい人間関係を築くことができたといえる。ワークシートの活用で付箋紙を利用したことも影響していると考えられる。付箋紙の利用で、簡単に記入できすぐに相手に渡すことができた。全ての生徒がクラスメイトからの肯定的メッセージをもらい、「うれしかった」と答えていた。また、自分の良いところを改めて知るきっかけとなったり、クラスメイトについて新しい発見があったりと、自己理解と他者理解が深まった。この付箋紙を使用した言語活動で、よりよい人間関係の構築につながったと考えられる。

(3) 実践事例3

科目名	ホームルーム活動	学年	1 学年
-----	----------	----	------

ホームルーム合宿活動の準備や事後指導において、事前、事後のワークシートや付箋紙を活用した相互評価を行わせる。合宿での普段とは違った一面を、生徒同士が相互評価することにより、人間関係が更に良好になることを検証する。

ア 単元（題材）名

ホームルーム活動

「ホームルーム合宿における討論を通してよりよい人間関係の育成」

イ 単元（題材）の指導目標

- (ア) 来年度に中心学年として、部活動や委員会活動で役員を務めるために必要なコミュニケーション能力を身に付ける。
- (イ) ホームルーム内で自分の役割を理解し、組織的な取組ができるようにする。

ウ 単元（題材）の指導と評価の計画（11時間扱い）

時間	学習内容	学習活動	評価規準 (評価方法など)
第一時	・ 討論テーマ決め	・ ホームルームオリジナルテーマ決め	・ ア① ・ イ③ (観察)
第二時	・ 討論テーマ決め	・ ホームルームオリジナルテーマ決め	・ ア① ・ イ③ (観察)
第三時	・ 模擬討論	・ 学年共通テーマで討論会を行う。	・ イ③ ・ ウ③ (観察・議事録)
第四時	・ 討論について講義	・ 「主張」と「根拠」の関係を説明する。	・ ア② ・ ウ③ (観察・発問)
第五時	・ 事前ワークシート	・ 友人の長所を認め、自分の役割を確認する。	・ イ④ ・ ウ③ (観察・ワークシート)
第六時	・ 結団式	・ ホームルーム合宿の意義を再確認する。	・ ア② ・ イ① (観察)
第七時	・ 討論①	・ 討論会	・ イ③ ・ ウ③ (観察・議事録)
第八時	・ 討論②	・ 討論会	・ イ③ ・ ウ③ (観察・議事録)
第九時	・ 討論③	・ 討論会	・ イ③ ・ ウ③ (観察・議事録)
第十時	・ 討論まとめ	・ 他のホームルームと合同で報告会を行う。	・ ア③ ・ ウ② (観察・感想文)

第十一時 (本時)	・事後ワークシート	・友人の長所を認め、自分の役割を確認する。	・イ④ ・ウ③ (観察・ワークシート)
--------------	-----------	-----------------------	---------------------------

ホームルーム合宿委員 各クラス 男子2名 女子2名

クラス内の役割分担

	模擬討論	討論①	討論②	討論③
議長	1名	1名	1名	1名
書記	2名	2名	2名	2名
討議資料作成		9名	9名	10名

討論のテーマ

模擬討論	クラス替えはすべきか否か (学年共通)
討論①	死刑制度は廃止すべきか否か (学年共通)
討論②	少年法の是非
討論③	旅行をするなら宇宙か深海か

エ 本時 (全11時間中の11時間目)

(ア) 本時の目標

- ・次の行事に向けて、前向きに取り組むための雰囲気をつくる。
- ・生徒一人一人の自己肯定感を育成する。

(イ) 本時の展開

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームルーム合宿の班ごとに席替えをし、机の向きを変えグループごとに座る。 ・ホームルーム通信を配布し、ホームルーム合宿の振り返りを促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームルーム合宿の意義を確認する。 ・欠席者に情報共有を図る。 	・ア② (観察)
展開	40分	・事後ワークシートの実施	・お互いに「良いところ」に注目するという意識をさせる。	・イ④ (ワークシート)
	10分	・ホームルーム合宿委員からまとめの挨拶		・ア① (観察)

まとめ	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・次の行事（3月のクラスマッチ）へ向けて今回の振り返りを生かすように促す。 ・討論活動を、今後の部活動、委員会活動、ホームルーム活動に生かすように話す。 ・来週の定期テストに向けて気持ちの切り替えをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・もう一度、ホームルームの中での自分の役割を自覚させる。 ・さらに、ホームルーム合宿の意義を振り返らせる。 ・定期テストに向けた雰囲気作りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウ①（発問） ・ア③（観察）
-----	----	--	---	--

オ 本時の振り返り

(ア) ホームルーム合宿での生活班でグループを作り、事後ワークシートを行ったため、お互いのホームルーム合宿期間中の行動を振り返りながら進めることができた。そのため、お互いのよかったところを付箋紙に書いて交換をするときに、具体的な行動に絡めて長所を示すことができた。図1の事後ワークシートの記入から分かるように、周りの友人から明確な長所を示されることにより、自己肯定感を育成することができた。

7. これからの1年D組であなたはどんなことができますか。
 ・色々の意見と話をし、自分にできる多くのことに積極的に取り組むこと。

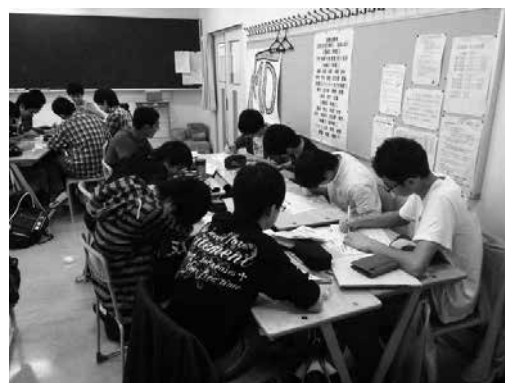
図1 自己肯定感の表れ

(イ) 本時のはじめにHR通信を配布し、討論会についての以下のような教師から見た反省点を示した。このことにより、ホームルーム合宿での多くの取組の中から、討論会について特に意識を向けて振り返りを行うことができた。図2の事後ワークシートの記入から分かるように、単元の指導目標であるコミュニケーション能力の育成をすることができた。

7. これからの1年D組であなたはどんなことができますか。
 ・具体的な事例や数値や資料を使い積極的に意見を述べ、相対立場に立って行動すること。

図2 コミュニケーション能力の向上

(ウ) ほぼ全員が、これからのホームルーム活動に向けて前向きな記述をすることができたが、具体性に欠けるものも含まれていた。今後の活動に向けて、生徒に明確な変容をさせるためには、具体的な取組をイメージできるよう今後働き掛けを行っていく必要がある。



授業風景1



授業風景2

カ ワークシート結果と考察

本部会共通のワークシートをHR合宿の事前と事後に実施した。ワークシート実施の目的は、ホームルームという団体の中で、集団活動を行うときの自分の役割を自分自身の考えと周り生徒の考えを比較しながら検討する作業を行う。他者の意見は付箋紙の交換により行うが、このときに他者のよい点に注目するようということを強調して説明した。

(7) 事前ワークシートの結果と考察

事前ワークシートは文化祭終了後の9月下旬に行った。3マス以上塗っている生徒を肯定していると判断すると、HR合宿を楽しみにしていると答えた生徒の割合は、89%である。このことから、HR合宿に対する興味・関心が高いことが分かる。やる気に関しては87%の生徒がやる気を持っている。積極的に発言できそうと答えた生徒の割合は

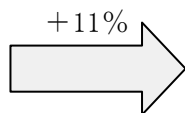
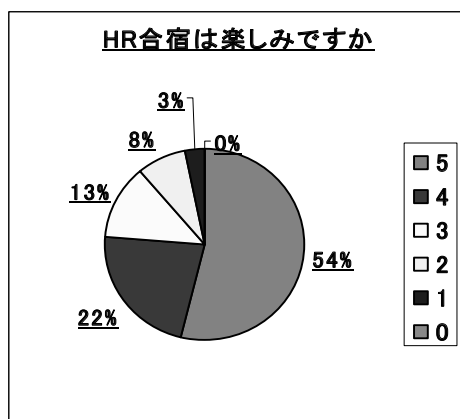


授業風景3

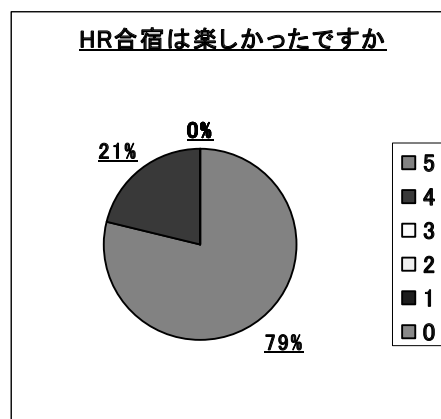
77%である。これらの結果からも意欲の高さを読み取ることができる。他の人の意見に耳を傾けることができると答えた生徒は95%と非常に高い。また、クラスは話せる雰囲気があると答えた生徒の割合は87%で協調性も高い状態である。この良好な状態をさらに高めるために、本部会が作成したワークシートが有効であるのかを分析した。

(4) 事後ワークシートの結果と考察

図10<事前>



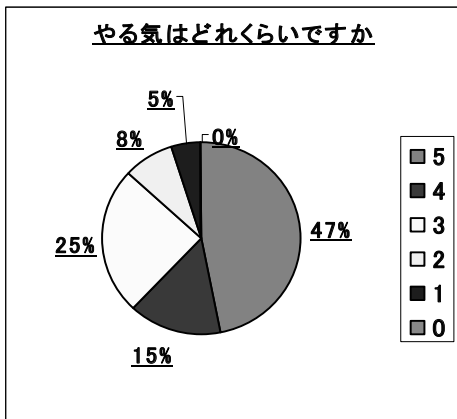
<事後>



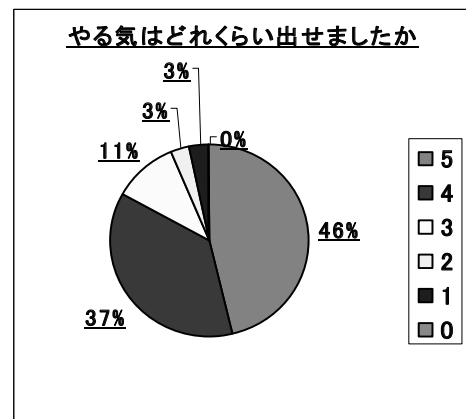
事後アンケートは10月上旬に行った。HR合宿が楽しかった生徒の割合は事前アンケートより11%増えて、100%となった。有意義なHR合宿ができたものと考えている。

また、やる気を出せた生徒の割合は(図11)7%増えて94%となった。積極的に発言できた生徒の割合は(図12)1%減り、76%となった。このことから、意欲はあるのだが実際に発言するのは簡単ではなかったと感じた生徒が多かったと考えられる。全員が発言できるようなルール作りなど工夫が必要である。

図 11<事前>

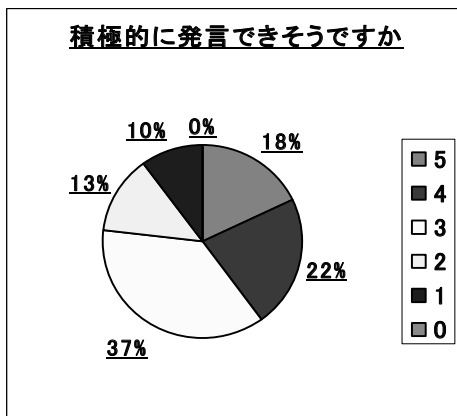


<事後>

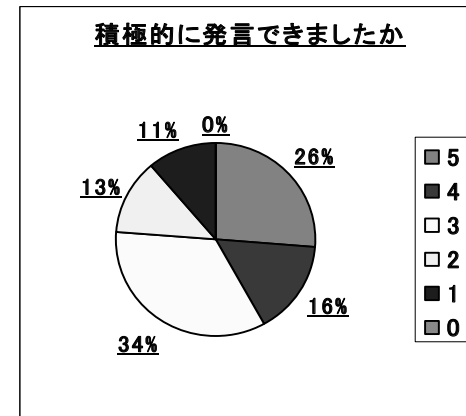


+ 7%

図 12<事前>

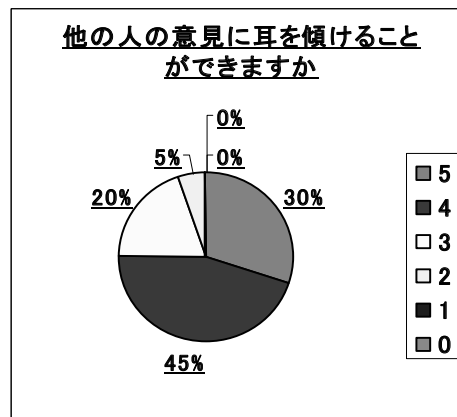


<事後>

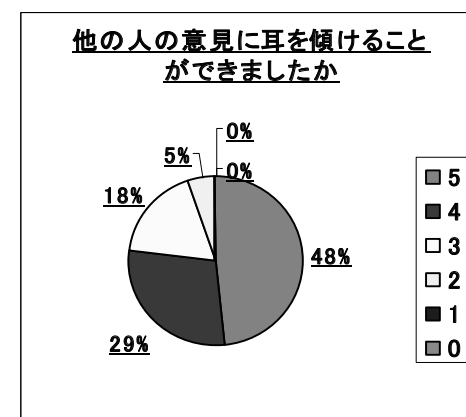


- 1%

図 13<事前>



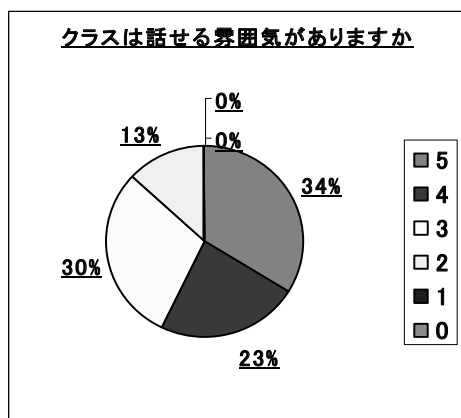
<事後>



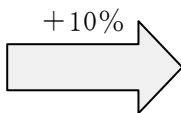
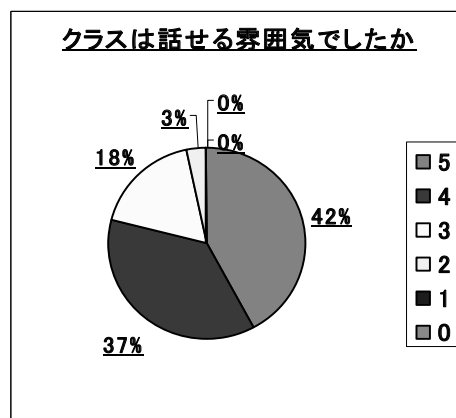
± 0%

他の人の意見に耳を傾けることができた生徒の割合は (図 13)、95%のまま変わらなかったが、クラスが話せる雰囲気と感じる生徒は 10% 増えて 97% となった。HR 合宿という共同生活の中で討論活動の場を設定することにより、クラスが話せる雰囲気になったと感じる生徒が多かったようである。

図 14 <事前>



<事後>



まだ、クラスが話せる雰囲気と感じていない生徒が(図 14) 3%いることについては、しっかりと受け止めなければならないが、全体的には協調性が高まったことが分かる。

具体的な記述内容に注目しても、事前アンケートでは個人的な目標を掲げていた生徒が、事後アンケートでは、以下のように意識がホームルーム全体に向くように変化が見られる。付箋紙を用いてお互いに意見交換を行う中で、他者から肯定的なメッセージを受け取ることで、より一層他者の存在を意識し、ホームルーム全体の中での自分の役割を意識するようになった。

このワークシートを使うことにより、学校行事を通して生徒同士がお互いに認め合い、自尊感情も高まった。ワークシートがよりよいホームルーム作りに有効であることが分かった。

5. 以上を踏まえての自分の目標 ・ 意見を出す。以上	⇒	6. 以上を踏まえて、自分はどう行動できたと思いますか。 ・ 班員を助けて行動できた
5. 以上を踏まえての自分の目標 ・ 意見が言えるようにがんばる	⇒	6. 以上を踏まえて、自分はどう行動できたと思いますか。 ・ HR委員として寝てかんはめた、山登りのこぼれものに空を飛んだ。
5. 以上を踏まえての自分の目標 ・ ちゃんと発言する。	⇒	6. 以上を踏まえて、自分はどう行動できたと思いますか。 ・ 自分らしくクラスに貢献できたのかなと思います。

VI 研究の成果

本研究は、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる評価の在り方について、研究を行ったものである。評価の在り方については、活動の事後のみでなく、事前及び活動中の各過程においても評価を行うことにより、生徒が自分の役割を自覚したり、目標を確認したりし、より意欲的に活動に取り組めると仮定した。また、生徒同士や教師による積極的な評価が自尊感情をもたせることにつながり、より高度な活動を促すと考えた。さらに、生徒の活動においてはもちろん、その評価の方法にも言語活動を多く取り入れることが、コミュニケーション能力を向上させ、ひいては円滑な人間関係を形成する力につながると考えた。

実践事例 1、2 は、文化祭におけるクラス企画を通して、実践事例 3 は、ホームルーム合宿

を通して、それぞれ評価の在り方を研究したものである。各事例とも、生徒が自分の役割や目標を確認したり、自信をもてたりするような評価を、適切な段階で行うことに重点を置き、その方法として、ワークシートを活用した。これは、まず各活動に対する自分の意欲の程度、役割等を記入させ、その後生徒同士で互いの良い点や期待することを付箋紙に書いて交換し、最後にもう一度自分の役割を再確認するというものである。このワークシートを事前、事後の段階で実施した。

ワークシートの記入内容から、友人から積極的な評価をされることによって、自分の役割を確認できた生徒が多いことが分かった。例えば、実践事例1の事前ワークシートにおいては、自分の役割が理解できなかった生徒の割合は、付箋紙のやりとりの前後で、13.5%から5%に減少している。このことから、他者から評価されることが自信につながり、自分の役割を見付けることができるようになることが分かる。

また、各事例とも、活動中の段階で、他者の考えを知ったり、自分の立場や役割を再確認したりするために、ワークシートの結果を生徒に示した。さらに、ホームルームでの対話や学級通信によって、教師による評価も行った。このような実践を経て、ワークシートの結果から分かることは、活動の事前と事後で生徒の意欲が向上していることである。例えば、実践事例2においては文化祭の充実度は事前、事後で79%から100%に、意欲は79%から81%に上昇している。実践事例3においても、ホームルーム合宿の充実度は89%から100%に、意欲は87%から94%に上昇している。

さらに、ワークシートの結果から、クラスの雰囲気がよくなっていることが分かる。実践事例2では、クラスが話せる雰囲気があると答えた生徒は、事前、事後で51%から73%へと大きく上昇し、実践事例3においても87%から97%に上昇している。また、教師の観察から、思いやりの心が育ったこと、コミュニケーション能力が向上したことなどもうかがえた。

Ⅶ 今後の課題

以上のような成果を踏まえ、今後さらに残された課題は、一つの活動を次の活動につなげられるような評価の在り方についての研究である。今回の実践事例においては、一つの活動に関して、適切な時点で評価を行うことにより、生徒の活動がより活性化し、よりよい生活や人間関係を築こうとする態度が育成されるということが検証された。しかしそれが次の活動につながっていくかという点までは検証することができなかった。特別活動は、一つの活動において学習したことが次の活動に生かされ、より高度な活動に発展していかなければならない。そのためには、全ての活動について、指導と一体になった評価がなされるべきであり、その評価方法について、継続的でより多角的な研究を行っていくことが求められる。

平成25年度 教育研究員名簿

高等学校・特別活動

学校名	課程	職名	氏名
東京都立昭和高等学校	全日制	主任教諭	齋藤 美奈
東京都立翔陽高等学校	全日制	教諭	◎藤本 宏
東京都立戸山高等学校	全日制	教諭	○小林 一人
東京都立雪谷高等学校	定時制	教諭	細川 笑子

◎ 世話人 ○ 副世話人

[担当] 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課
指導主事 堀江 敏彦

平成25年度
教育研究員研究報告書

高等学校・特別活動

東京都教育委員会印刷物登録

平成25年度第193号

平成26年 3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6836
印刷会社 昭和商事株式会社